様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　９ 月　７ 日現在

機関番号：３２６８７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００２９６

研究課題名（和文）化政期俳諧再評価のための新研究

研究課題名（英文）A New Study on Re-evaluation of Haikai in The 18th and 19th centuries

研究代表者
伊藤　善隆（ITO, Yoshitaka）

立正大学・文学部・教授

研究者番号：３０２８７９４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　「都市俳諧・地方俳諧の時代から月次俳諧の時代へ」という本研究のテーマを検証するため、とくに俳人書簡・俳人人名録・俳人肖像画入俳書・美濃派俳書・八千坊系俳書・雑俳資料・月次俳諧資料を中心に調査を行った。
　その結果、化政期以降、月並句合の流行に伴って地方俳人たちと三都の宗匠との結びつきが強まっていたこと、『万家人名録』（文化十年刊）の企画が書簡による各地の俳人たちの交流を活発化させたことなどをを具体的に示した。併せて『蕉門格外弁』（寛政二年刊）とその影響を検討し、中興期以降の俳人たちに、芭蕉一座の連句の用例を研究することで「蕉門」を明らかにしようとする意識があったことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究は、これまでの研究で「低俗」とされてきた化政期俳諧の再評価を目的とした。すなわち、正岡子規が幕末・明治期に流行した月次句合を「月並調」と批判して以来、月次句合とそれに関わった俳人たちは「低俗」とされてきた。月次句合の始発期である化政期の宗匠たちへの評価も厳しい。
　しかし、当時の俳諧資料は、まだ研究の俎上に載せられていないものが多く残されている。そこで、それらを検討し、当時の俳人たちの興味や価値観を明らかにしようとした。そうすることで、「近代的な文学的価値観」で切り捨てられてきた化政期俳諧の再評価を目指した。これは、江戸時代の文学・文化を理解するための、新たな視点を提供することにもなる。

研究成果の概要（英文）：In order to verify the theme of this study, "From the age of urban haikai and local haikai to the age of Tsukinami haikai," we investigated mainly haikai poets' letters, haikai poets' name lists, portrait collections of haikai-poets, Mino-ha haikai schoole materials, Hassenbo haikai school materials, Zappai materials, and Tsukinami haikai materials.
As a result, it was concretely shown that after the Kasei period, the ties between local haiku poets and the masters of the three capitals strengthened with the popularity of Tsukinami haikai, and that the project of "Banka-Jinmeiroku" (published in 1813) stimulated the exchange of haiku poets from various regions through letters.In addition, I examined "Shomon kakugaiben" (published in 1790) and its influence, and found that haiku poets from the mid-Edo period onward had tried to clarify "Shomon" by studying examples of renku in which Basho participated.

研究分野：近世文学

キーワード：近世文学　俳諧

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

これまでの化政期の俳諧研究においては、職業俳人として当時人気のあった宗匠たちよりも、むしろ素人俳人に対する評価が高い、というねじれ現象があった。たとえば、丸山一彦氏は、「化政俳諧」（『俳文学大辞典』1995）で、「多くの宗匠たちは、大衆を相手にただ見せかけの風雅を売るにすぎなかった」とする一方、「俳諧を余技とする遊俳たちは、大衆に媚びる必要もなく、それぞれ自得の俳境を楽しんだ」とする。また、丸山氏は、美濃派にはまったく触れていない。

この偏った評価の原因は、化政期以降に流行した「月並調」を、正岡子規が「低俗」と批判したことが遠因にある。近代的な「文学」としての価値観によって、化政期の俳諧は「低俗」であるという先入観を持たれるようになり、それが広く共有されてしまっていた。そのため、化政期の俳諧は、まだまだ充分に研究されていない状況である。

２．研究の目的

上記の状況に対し、本研究では、子規の見解に代表されるような「文学」としての評価は措き、俳諧史における化政期の動向の特徴を、以下の２点に見出すことができることに注目した。

（1）享保期以来続いた都市俳諧・地方俳諧という俳壇の枠組が崩れ、それぞれ月次句合に解消されていくこと。

（2）その月次句合が地方の俳人と都市の宗匠を結びつける機能を果たしていたこと。

上記２点をその特徴と捉えることで、中興期と天保期との結節点として化政期俳諧を位置付けることができると考え、その具体相を解明していくことを本研究の目的とした。

３．研究の方法

化政期の俳諧資料は、まだ研究の俎上に載せられていないものが各地に多く残されている。本研究では、それらの資料を検討することで、当時の俳人たちの価値観を明らかにしようとした。そうすることで、子規の見解に代表されるような近代の「文学」的価値観で切り捨てられてきた化政期俳諧の再評価を目指す、という方法を取った。

とくに、前項に記した（1）（2）の具体相を明らかにするため、三都の宗匠たちと地方の俳人たちの結びつきを示す資料、さらには美濃派の宗匠たちの動向を明らかにするための資料に注目し、調査を行うことを計画した。また、月次俳諧成立の経緯を探るため、それ以前の雑俳資料も視野に入れて調査を行うこととした。

そこで、まずは当時の俳人の書簡に注目した。とくに、地方俳人と三都の俳人との結びつきを示す書簡、また地方俳人同士の結びつきを示す書簡、この２つを求めて調査を行った。つぎに、月次句合や雑俳の資料（募句チラシ、丁摺、など）、それに当時の俳書に注目した。とくに、俳書の中でも、俳人の追善集や年刊句集（歳旦集・春興帖・秋興帖など）を検討すると、当時の俳人同士の交際の範囲や交遊圏の変化を知ることができる。さらに、これまでの研究では放置されてきた化政期前後の美濃派の資料調査も、可能な限り行うこととした。

４．研究成果

(1)　本研究の全体像に関わる成果

従来から調査を行ってきた出雲俳壇に関して「出雲俳諧史と大社俳壇」（『出雲地域の学問・文芸の興隆と文化活動』所収）を発表した。この論考の後半部分においては、本研究の核心である「都市俳諧・地方俳諧の時代から月次俳諧の時代へ」という見取り図にしたがって、出雲俳諧史を叙述することができた。

また、本研究の最終年度には、これまでの手錢記念館の資料調査で得た知見を出発点として、近世中期から幕末・明治期に至る蕉門意識の展開を「『蕉門格外弁』の検討―蕉門探求の一階梯―」として論じた。 本稿は、本研究の核心である「都市俳諧・地方俳諧の時代から月次俳諧の時代へ」という見取り図に、本研究で検討した諸資料のいくつかを位置づけ、地方俳諧の研究で得られた知見を、俳諧史全体の流れの中に定位させることができた。

(2)　俳人の書簡の調査

手錢記念館（島根県出雲市大社町）に所蔵される資料中に、手錢家五代目当主有秀に宛てた諸国の俳人たちからの書簡九通が新たに見出されたことが、本研究の遂行上の重要な出来事となった。これまで存在が確認されていなかったこれらの書簡の分析を行うことで、口頭発表（「近世俳諧史と大社俳壇―手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの―」「『万家人名録』前後―手錢記念館所蔵資料から―」）と論考（「近世俳諧史と大社俳壇―手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの―」「『万家人名録』刊行前後―手錢有秀宛俳人書簡―」）をまとめることができた。

上記の発表・論考において、『万家人名録』（文化十年刊、手錢記念館には有秀所用本が所蔵される）の企画が、書簡による各地の俳人たち同士の交流が活発化した中興期以降の時代風潮を巧みに捉えたものであったことを具体的に示すことができた。

また、蒼〓（虫に礼の旁）書簡（松江天神町連中宛、年次不明五月廿五日付、個人蔵）他の資料を検討し、化政期以降、月並句合の流行に伴って、出雲の俳人たちと京都の宗匠との結びつき

が強まっていたことを具体的に示すことができた（前掲「出雲俳諧史と大社俳壇」、および「近世俳諧史と大社俳壇―手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの―」）。
　このことは、たとえば松江の俳人山内曲川が、京都で活動していた蒼〓（虫に礼の旁）の弟子の万籟に入門したことの伏線になること、つまり、地方俳人たちの師弟関係や俳諧活動のあり方が地縁や血縁を中心としたものから三都の宗匠との結びつきを重要視するものに変化していったことを裏付ける事象であると指摘できる。これによって、本研究の核心である「都市俳諧・地方俳諧の時代から月次俳諧の時代へ」という見取り図に、近世中期から幕末期に至る出雲俳諧史を、より具体的に位置づけることができた。

(3)　月次句合と、それ以前の雑俳資料の調査
　上述(2)の論考で使用した募句チラシ等の資料の他、近世中期の勝句巻の意匠が、当時の雑俳書の挿絵の図様に影響を与えていると考えられる資料（個人蔵）を見出すことができた。このことは、雑俳から月次句合への展開や、享保期以降に盛んになる絵俳書の展開を考える上で、今後、重要な端緒となることが予想される。

(4)　俳書調査
　手錢記念館に所蔵される資料の調査を進め、「花叔三回忌追善集『夢路の葉桜』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十一）―」、「晩翠居一釣編『手曳能萬津』―手錢記念館所蔵俳諧資料（一二）―」「阿井・大馬木連中編『出雲筵』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十三）―」、「克己庵維中追善集『蓮のうてな』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十四）―」、「論考篇　手錢記念館蔵「名月も」八吟百韻について―五彩堂矩州点、雪淀・画龍・錦水等一座―」、「未暁庵富英編『俳諧　時津風』―手錢記念館所蔵俳諧資料（一五）―」、「橡実庵一枝編『ひの川集』―手錢記念館所蔵俳諧資料（一六）」を発表した。また個人蔵の資料により「魚坊三回忌追善集『菴記念』『庵のかたみ』」を発表した。
　上記は、いずれも山陰地域に関わる資料の翻刻・分析であるが、美濃派資料（『菴記念』『庵のかたみ』『蓮のうてな』）、大名俳諧資料（「名月も」八吟百韻）、奉納句合資料（『俳諧　時津風』）と、三種類の性質のことなる資料により、当該地域の俳諧活動の動向を多角的に報告できたことは、大きな収穫であった。
　なお、主に石見・出雲で活動した魚坊は、中国地方における美濃派俳諧の実態を解明するために逸することのできない俳人である。しかし、その三回忌追善集『菴記念』『庵のかたみ』は、これまで全文の翻刻紹介が行われていなかった。同書は、魚坊の句文を収めるだけでなく、交遊関係を分析する上でも重要な資料だが、その翻刻紹介を行うことができたことは、本研究の大きな成果である。
　また、橡実庵一枝編『ひの川集』（安政五年刊、手錢記念館所蔵）の入集俳人の調査として、同じ編者による淡々百回忌追善集『翁くさ集』（安政七年刊、個人蔵）の入集者と比較する作業を行ったが、これにより、出雲俳人をはじめとする中国地方の俳人たちが、大坂の八千坊系の俳人たちと交流を持っていたことを具体的に示すことができた。すなわち、歴代の八千坊の宗匠たちは、大坂を本拠地として中国・四国・九州に勢力を伸ばしていたが、以上の調査は、今後、同地域の八千坊系俳人の活動の全容を明らかにするために重要な情報を提供するものとなることが予想できる。
　さらに、近世後期から幕末期にかけて活躍した鳳朗の門人たちの肖像画集についても調査を行い、「鳳朗編『正風発句　湯島三十六吟』」をまとめた。これにより、江戸の人気宗匠の門人の構成を具体的に示すことができた。
　また、幕末明治期の宗匠の絵俳書出版活動に関して、「絵俳書版木の再利用―『たまひろひ』と『山城名勝風月集』、『都名所画譜』―」という口頭発表を行い、「『たまひろひ』と『山城名勝風月集』、そして『都名所画譜』―絵俳書の板木再利用―」という論文にまとめることができた。

(5)　美濃派
　化政期前後の美濃派（地方俳諧）の消長を具体的に把握することを目的とし、美濃派の俳書を対象とした書誌調査を実施した。調査対象は100余点に及んだが、その中には「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館）に未収録の作品も複数含まれていることが収穫であった。その上で、従来研究の俎上に置かれることがなかった大坂の美濃派俳人である桂影舎露葉に注目し、その活動の概要を明らかにした。また、従来知られていなかった露葉の編著（歳旦集）を見つけることができた。その成果として、「桂影舎露葉編『かゞみ餅』」、「桂影舎露葉編『葛濃阿楚飛』」を発表した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計39件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 伊藤善隆	４．巻 43
２．論文標題 「俳画の魅力（四十）　氷壺・抱儀・見外賛、是真画「樹のかげに」画賛」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『風』	６．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊藤善隆	４．巻 44
２．論文標題 「俳画の魅力（四十一）　鳳朗「うれしさに」自画賛」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『風』	６．最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊藤善隆	４．巻 13
２．論文標題 「克己庵維中追善集『蓮のうてな』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十四）―」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『山陰研究』	６．最初と最後の頁 六七～七七
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 伊藤善隆	４．巻 45
２．論文標題 「俳画の魅力（四十二）　畔李賛・白孝画「千秋の」画讃」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『風』	６．最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤勝明・井上敏幸・鹿島美里・玉城司・伊藤善隆・稲葉有祐・真島望	4．巻 －
2．論文標題 「翻刻篇　巻一「東風流　一」　巻二「吾嬬布里　二」　巻三「阿津まふり　三」　巻四「東ふり　四」　巻五「あつま婦理　五」　巻六「安兎摩不梨　六」　巻七「東風流　七」」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『東風流―宝暦俳書の翻刻と研究―』	6．最初と最後の頁 13～183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤勝明・伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 「翻刻篇　連衆・立句と入集者の一覧」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『東風流―宝暦俳書の翻刻と研究―』	6．最初と最後の頁 185～196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・稲葉有祐・真島望・鹿島美里	4．巻 －
2．論文標題 「評釈篇　巻六所収「寒梅や」歌仙評釈　巻二所収「猪も」歌仙評釈」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『東風流―宝暦俳書の翻刻と研究―』	6．最初と最後の頁 229～301
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 「論考篇　手錢記念館蔵「名月も」八吟百韻について―五彩堂矩州点、雪淀・画龍・錦水等一座―」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『東風流―宝暦俳書の翻刻と研究―』	6．最初と最後の頁 401～413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 37
2．論文標題 「未暁庵富英編『俳諧 時津風』―手錢記念館所蔵俳諧資料（一五）―」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『立正大学文学部研究紀要』	6．最初と最後の頁 五三～六八
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 59
2．論文標題 「幽山点巻「時雨奇成に」歌仙」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『立正大学 國語國文』	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 37
2．論文標題 「魚坊三回忌追善集『菴記念』『庵のかたみ』」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『立正大学大学院紀要』	6．最初と最後の頁 五九～八三
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4．巻 99
2．論文標題 「宝永正徳俳人大観（十二）」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 170～195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 39
2．論文標題 俳画の魅力（三十六）　梅室賛・南溟画「花と人」画賛	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4．巻 96
2．論文標題 『きくいたゞき』「他力あり」歌仙分析	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 204-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 40
2．論文標題 俳画の魅力（三十七）　英慶子「わが乳母の」自画賛	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 41
2．論文標題 俳画の魅力（三十八）　樗良「終夜」自画賛	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 『たまひろひ』と『山城名勝風月集』、そして『都名所画譜』―絵俳書の板木再利用―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『在外絵入り本　研究と目録』三弥井書店	6．最初と最後の頁 19-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 桃隣舎文辰著『〔池西言水四季独吟評釈〕』について―近世後期における元禄俳諧評釈―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『在外絵入り本　研究と目録』三弥井書店	6．最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4．巻 97
2．論文標題 宝永正徳俳人大観（十一）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 267-302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 12
2．論文標題 阿井・大馬木連中編『出雲筵』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十三）―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『山陰研究』	6．最初と最後の頁 六五-七四
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 42
2．論文標題 俳画の魅力（三十九）　八千坊流美賛・森関山画「たくはえの」画賛	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 57
2．論文標題 『万家人名録』刊行前後―手錢有秀宛俳人書簡―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『立正大学人文科学研究所年報』	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 36
2．論文標題 田部松声編『まつのはれ』―得々庵中哉四十賀記念集―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『立正大学大学院紀要』	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 58
2．論文標題 「はゐか 執心蔵見立評判記」―幕末期俳人の見立番付―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『立正大学 国語国文』	6．最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 近世俳諧史と大社俳壇―手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『手錢家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業―平成三十一年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書―』公益財団法人手錢記念館	6．最初と最後の頁 22-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中則雄・久保田啓一・伊藤善隆・小林准士・佐々木杏里	4．巻 －
2．論文標題 【シンポジウム】資料から再発見する江戸の底力―手錢家所蔵資料（文書・古典籍・美術）を繋ぎ活かす取り組み―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『手錢家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業―平成三十一年度出雲文化活用プロジェクト実施報告書―』公益財団法人手錢記念館	6．最初と最後の頁 36-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 庄内藩士の環境文学【ネイチャーライティング】―『百華辨』の紹介と解説―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社	6．最初と最後の頁 103-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 コラム 大名の俳諧文化①　松前章弘（維嶽）自筆発句「淡雪と」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社	6．最初と最後の頁 9-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 コラム 大名の俳諧文化②　南部信房（畔李）賛・洞悦白孝画「千秋の	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社	6．最初と最後の頁 101-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 コラム 大名の俳諧文化③　酒井抱一自画賛「今上る」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社	6．最初と最後の頁 173-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 －
2．論文標題 コラム 大名の俳諧文化④　本多忠永（清秋）賛・橋本栄保画「初わかな	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『大名文化圏における〈知〉の饗宴』世音社	6．最初と最後の頁 265-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 36
2．論文標題 俳画の魅力（三十三）　蒼〓（虫に礼の旁）賛・雪操画「棒ついて」画賛	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐藤勝明・玉城司・伊藤善隆・服部直子・越後敬子・稲葉有祐	4．巻 94
2．論文標題 『四時観』「名月や」歌仙分析	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4．巻 94
2．論文標題 宝永正徳俳人大観（九）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 122-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 37
2．論文標題 俳画の魅力（三十四）　瓢水画「ほろほろと」自画賛	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『風』	6．最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆・金子俊之・佐藤勝明	4．巻 95
2．論文標題 宝永正徳俳人大観（十）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6．最初と最後の頁 80-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 11
2．論文標題 花叔三回忌追善集『夢路の葉桜』―手錢記念館所蔵俳諧資料（十一）―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『山陰研究』	6．最初と最後の頁 一九-三〇
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 56
2．論文標題 鳳朗編『正風発句 湯島三十六吟』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『立正大学人文科学研究所年報』	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊藤善隆	4．巻 35
2．論文標題 晩翠居一釣編『手曳能萬津』―手錢記念館所蔵俳諧資料（一二）―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『立正大学大学院紀要』	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 伊藤善隆
2．発表標題 近世俳諧史と大社俳壇―手錢記念館所蔵資料から見えてくるもの―
3．学会等名 島根大学・手錢記念館包括連携協定締結記念３プロジェクト合同成果報告シンポジウム「資料から再発見する江戸の底力―手錢家所蔵資料（文書・古典籍・美術）を繋ぎ活かす取り組み―」（招待講演）
4．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤善隆
２．発表標題 『万家人名録』前後―手錢記念館所蔵資料から―
３．学会等名 立正大学人文科学研究所第2回定例発表会
４．発表年 2019年

１．発表者名 伊藤善隆
２．発表標題 絵俳書版木の再利用―『たまひろひ』と『山城名勝風月集』、『都名所画譜』―
３．学会等名 ＨＮＬ国際共同研究会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

１．著者名 公益財団法人いづも財団出雲大社御遷宮奉賛会	４．発行年 2018年
２．出版社 今井出版	５．総ページ数 227
３．書名 『出雲地域の学問・文芸の興隆と文化活動』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関